

【国語】

学習指導要領の内容別平均正答率

内容(3)「我が国の言語文化に関する事項」以外は全国を上回っている。とくに内容(1)「**言葉の特徴や使い方に関する事項**」は全国67.5%に対し、大中88.5%であり、**20ポイント以上高い**。

評価の観点別平均正答率

観点①「知識・技能」 全国69.4%に対し、大中79.1%で**9ポイント以上高い**

観点②「思考・判断・表現」全国69.7%に対し、大中78.6%で**8ポイント以上高い**

問題型式別平均正答率

選択式 全国に比べ **9ポイント以上高い**

短答式 全国に比べ**15ポイント以上高い**

記述式 全国に比べ **7ポイント以上高い**

具体的な設問について

1三 相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する

全国76.6% 大中92.3% **全国に比べ15.7%高い**

話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかを見る問題であり、生徒会活動や係活動での対話の場面や大中ラボでの意見交換の場面を通して知りたい情報に合わせた質問をする機会を設定できたことの結果と考えられる。

3三 「『判じ絵』とは何か」と見出しをつけた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く

全国61.8% 大中84.6% **全国に比べ22.8%高い**

具体と抽象の関係について理解し、「判じ絵」の具体的な説明内容に合う見出しを答える問題であり、情報と情報を結びつけてその関係について理解し、内容に即した適切な見出しを書くことができた。授業の中で、さまざまな情報を結びつけて理解を深める取組をしていることのせいかと考えられる。

【数学】

学習指導要領の内容別平均正答率

領域4「データの活用」以外は全国を上回っている。とくに領域C「**関数**」は全国51.2%に対し、大中61.5%で**10ポイント以上高い**。

評価の観点別平均正答率

観点①「知識・技能」 全国55.7%に対し、大中56.9%で**1ポイント以上高い**

観点②「思考・判断・表現」全国41.6%に対し、大中49.2%で**7ポイント以上高い**

問題型式別平均正答率

選択式 全国と大きく変わらない

短答式 全国と大きく変わらない

記述式 全国に比べ**7ポイント以上高い**

具体的な設問について

7(2)「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する

全国33.6% 大中53.8% **全国に比べて20.2%高い**

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題であり、3ページにわたって資料や問題文が書かれているものの、無回答率も低いことから、根気よく複数の資料を読み比べ、読み取った情報を総合して記述しようとしたと考えられる。

8(2) 二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ

全国61.7% 大中84.6% **全国に比べて22.9%高い**

事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題であり、4ページにわたってグラフや問題文が書かれているものの、無回答率は0%であり、グラフから読み取れる情報を適切に読み取り、前提となる事柄を選択できたと考えられる。

8(3) グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する

全国42.8% 大中61.5% **全国に比べて18.7%高い**

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題であり、4ページにわたって書かれたグラフや問題文から必要な情報を読み取り、自身の選択した項目の内容を記述して説明することができた。生徒会活動や大中ラボで自身の考えをまとめたり、記述したりする機会を多く設定したからであると考えられる。

【英語】

学習指導要領の内容別平均正答率

領域(1)「聞くこと」 全国58.4%に対し、大中58.4%で**12ポイント以上高い**

領域(2)「読むこと」 全国51.2%に対し、大中55.1%で **3ポイント以上高い**

領域(3)「話すこと(やりとり)」全国14.5%に対し、大中26.9%で**12ポイント以上高い**

領域(4)「話すこと(発表)」全国4.2%に対し、大中0%で**4ポイント以上低い**

領域(5)「書くこと」 全国23.4%に対し、大中36.9%で**13ポイント以上高い**

評価の観点別平均正答率

観点①「知識・技能」 全国51.5%に対し、大中61.5%で**10ポイント以上高い**

観点②「思考・判断・表現」全国38.8%に対し、大中48.1%で**9ポイント以上高い**

問題型式別平均正答率

選択式 全国に比べ **8ポイント以上高い**

短答式 全国に比べ**18ポイント以上高い**

記述式 全国に比べ **5ポイント以上高い**

具体的な問題について

1 (2) 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する

全国64.4% 大中92.3% **全国に比べて27.9%高い**

情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題であり、日常の英語科の授業やALTとの授業、リトアニア出身の八丈町交流員を招いた交流活動で英語を使用する場面を効果的に設定した結果であると考えられる。

2 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する

全国61.1% 大中100% **全国に比べて38.9%高い**

日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題であり、普段の強化学習や生徒会活動、大中ラボなどので意見交流する際に相手の話をよく聞く習慣が身につけていた結果であると考えられる。

9 (1) ①与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる

全国40.4% 大中61.5% **全国に比べて21.1%高い**

未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題であり、英語科の授業やALTの授業で実用的な表現や表現方法を変えた言い回しなどの会話場面を適切に設定した結果であると考えられる。

【英語】 (話すこと)

話すこと全体を通して、無回答率は全国に比べると低い。どのような問題にも回答しようとする姿がある。

1 (4) 動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える

全国16.1% 大中61.5% **全国に比べて45.4%高い**

話すことの問題では全体的に正答率が2割に満たず、大中も2割に満たない問題があるが、この問題は6割以上の生徒が正答している。質問を受けて、さまざまな解答例がある中で、自分自身の言葉で留学

生にふさわしいお土産について説明できており、日頃の教育活動で相手に対し、発表や説明する機会を適切に設定したことの成果と考えられる。

【生徒質問紙】

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

4 当てはまらない 全国10.7% 大中30.8% (R4大中は9.5%)

家族や親族など周囲の大人との強い関係が構築されているほか、塾や家庭教師など学校以外の大人とのつながりがあるのではないかと考えられる。

(19) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか

1 当てはまる 全国39.3% 大中84.6% **全国に比べて45.9%高い**

学校以外に塾や家庭教師などで学習する機会が多い。また、社会福祉協議会の学習支援事業「ふらっと」へ参加する生徒が多いのも本校の特徴である。

(33) 1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

1 当てはまる 全国28.1% 大中84.6% **全国に比べて56.5%高い**

一人一台端末を教科学習だけでなく、学活、総合的な学習の時間、道徳などの授業で活用しているほか、生徒会活動や部活動など特別活動でも利用している。

(34) 学校の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

1 当てはまる 全国58.7% 大中84.6% **全国に比べて25.9%高い**

日常でICT機器を利用していることから効果的に学習に利用する週間が身につけているのであると考えられる。大中ラボの探求活動でも生徒は積極的にICT機器を使用している。

(69) 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

1 当てはまる 全国42.9% 大中84.6% **全国に比べて41.7%高い**

英語科の授業でスピーチやプレゼンテーションなど発表の機会を多く設定していたことの効果であると考えられる。

(国1) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか

1 当てはまる 全国74.3% 大中100% **全国に比べて25.7%高い**

国語科に限らず、さまざまな教科で記述表現する機会が多く、記述する問題への抵抗感が低く、問題に果敢に挑戦したのであると考えられる。